

氷見海岸北部

氷見海岸北部にも、多くの堆積岩でできた露頭が見られますが、大境海岸から北へ行くにつれて、より古い時代に堆積した露頭が見られます。

富山県栽培漁業センター横を通って海岸におりていくと、高さ2.5 mほどの海食崖が見つかります。この露頭は下位から姿層、海緑石密集層（いずれも後期中新世＝約900万年～1000万年前）、海緑石を含む藪田層（鮮新世、670万年より新しい）からなっています。ところで、この海緑石とはどのような岩石でしょうか。海緑石とは、

$(K, Na, Ca) < 1 (Al, Fe_3, Fe_2, Mg)_2 (Si, Al)_4 O_{10} (OH)_{20}$ という化学式からなる青緑色の粉末塊です。もとは生物起源の有機物が関係してくるようですが、浅く、静穏な環境下での海底風化によって形成されると考えられています。すなわち、上位の藪田層が堆積するまでに、長期間にわたって何も堆積をしなかった時期があったという証拠になるのです。



海緑石露頭

海緑石の下に位置する姿層は、大量に珪藻の化石を含んだ泥岩からなり、顕微鏡では様々な珪藻化石を発見することができます。

中田集落から北方へいくと、厚さ20mの凝灰岩層が見えてきます。堆積した年代はさらに古く、約1500万年前と考えられています。

石川県境に近い中波の火神社付近や仏島の露頭にみつける泥岩は、さらに古いものです。

大境から北の海岸沿いの露頭には、貝化石はなかなか見つけることはできませんが、旧女良小学校付近の海岸には多くの泥岩れきが落ちており、よく調べると貝化石が見つかることもあります。



旧女良小横の海岸
遠くに虻が島が見える。

